

## 北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第69回本部会議 記録

日 時／令和3年8月4日（水）

17：00～17：27

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

### 【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第69回本部会議を開催いたします。

まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

### 【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

それでは、資料1をご覧くださいと思います。

道独自の警戒ステージの指標についてであります。昨日時点で、全道、札幌市ともに、重症者用の病床使用数を除きまして、前の週を上回っているという状況です。特に、全道の新規感染者数ですけれども、1週間前から倍増しているという状況になります。

続いて、国の分科会提言で示された新たな指標に関してですけれども、昨日時点で、全道では、重症者用病床の使用率を除いた全ての指標で、ステージⅢを上回っているほか、療養者数、新規感染者数、感染経路不明割合の3つが、ステージⅣの指標を上回っているという状況です。札幌市は、より厳しい状況となっております。入院率、療養者数、新規陽性者数、感染経路不明割合の4つで、ステージⅣの指標を超えているという状況です。

総評です。全道の新規感染者数ですが、増加が続き、人口10万人当たり30人を超えるなど厳しい状況となっている。また、札幌市におきましては、連日100人を超える新規感染者が確認されておまして、感染経路不明割合も高い水準で推移している。感染拡大に歯止めがかかっていないという状況です。新規感染者数は全道の65%を占めておまして、全体を押し上げているという状況です。札幌市以外の各地域においても飲食店や事業所、学校などでの集団感染が発生するなど、新規感染者数が増加しているという状況です。

続いて、デルタ株の状況ですけれども、検査数の半数がデルタ株でありまして、直近1週間では、約70%が札幌市に集中しているという状況です。

医療提供体制です。入院患者数、療養者数は、増加が続いています。特に札幌市内においては、フェーズ3相当での病床を確保し対応しているものの、病床使用率は40%を超えている。なお、入院率についてですが、札幌市内では、25%を下回っておりますが、若年層の感染者割合が高く、宿泊療養者や自宅療養者が多いことから、入院できない者が多くなっている状況ではないという状況です。

また、参考資料として配付しておりますけれども、昨日、国から、入院は重症患者や特に重症化リスクの高いものに重点化すること、入院患者以外は自宅療養を基本とし、家庭内感染の恐れや自宅療養ができない事情等がある場合に宿泊療養を活用することといった内容が示されております。現下の感染拡大を踏まえた患者療養の考え方が示されたところでございます。

ワクチンの状況ですが、道内における接種率ですけれども、8月2日現在、1回目の接種を終了した方は34.8%、2回目は24.6%。このうち、65歳以上の高齢者についていいま

すと、1回目85.1%、2回目69.8%が終了したという状況になっております。

今後の対策です。札幌市内については、まん延防止等重点措置の下、人と人との接触機会を抑えるため、札幌市と連携して、できる限り外出を控えることについて改めて徹底を図るとともに、感染対策の肝とされます飲食による感染リスクの減少に取り組み、市民への普及啓発をはじめ、飲食店に対する見回り、路上飲み対策などを実施してまいります。

全道においては、できる限り札幌市との往来を控えることについて、啓発を強化するとともに、各地で発生しております集団感染に対し、迅速に対応してまいります。さらに、市町村と連携して、地域の実情に応じた、感染防止対策を機動的に実施してまいります。

夏休みシーズンに入りまして、人の移動が活発化する中、来道を検討されている方、特に帰省や旅行を検討している方に対して、SNSなどを活用し、北海道への移動を極力控えることについて呼びかけた上で、どうしても移動が避けられない場合には、感染防止対策の徹底や、PCR検査等を受けることなどについて、働きかけてまいります。

ワクチン接種についてですけれども、発症予防、重症化予防とともに、感染予防効果を示唆する報告もありまして、引き続き、市町村へのきめ細かな支援を行うなど、希望する方が一日も早くワクチン接種を終えることができるよう取り組んでまいります。

これまで道では、自宅や宿泊療養施設で療養される方に対しまして、食品や日用品セットの配布やパルスオキシメーターの貸与に加えて、保健所による健康観察の徹底や必要に応じた在宅医療の提供など万全の支援を行うとともに、医師会等関係者との連携を図り、自宅療養者に対しまして訪問診療やオンライン診療といった在宅医療を実施しており、今後もこれらの取組を進めながら、重症化に迅速に対応できるよう体制強化などに取り組んでまいります。

次に、総評で取り上げなかったデータに関しまして、何点かご説明いたします。

スライド8で地域別の感染状況です。振興局別に先週の状況と比較して見ておりますけれども、昨日までの1週間の新規感染者数ですけれども、檜山振興局、オホーツク総合振興局以外の振興局で増加しておりまして、ご覧いただいておりますとおり、増加幅も大きくなっているという状況です。

続いて、スライド11になりますけれども、年代別の新規感染者の割合です。30代以下が全道的に68%と先週から増加しておりまして、先週とまた比較すると、特に札幌市以外の増加幅が大きいという状況になっています。

人出の状況です。スライド18をお願いします。札幌駅周辺の人出の状況ですけれども、まん延防止等重点措置を開始しましたが、日中、夜間ともに横ばいの状況です。また、すすきの駅周辺の人出ですけれども、足下では、日中は横ばいではありますが、夜間についてはやや減少の傾向が見て取れますけれども、過去の緊急事態宣言時やまん防時に比べれば高い状況が続いているという状況です。

その他のスライドにつきましては、後ほどご参照いただければと思います。資料1の説明は以上です。

引き続き、資料2をご覧いただければと思います。道内の感染状況等につきまして、専門家及び有識者のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせしているところでございます。

有識者、専門家等からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますけれども、その主なものについてご紹介いたしますと、(1-①) デルタ株の感染力やワクチン接種の有効性などについて、道民に理解を深めるよう広報に努めてほしいといったご意見や、(1-②) 事業所、学校、飲食店の感染については、囲い込みを可能な限り行ってほしい。

また、基本的な感染予防対策を今こそ行うよう周知すべきなどといったご意見が寄せられております。

また、市町村、関係団体からですけれども、ここにきて、感染者数が一向に減る様子が見られないのは、いわゆる自粛疲れや度重なる宣言による危機感の希薄などによって、人流が抑えられないことが要因の一つだと思われる。今一度、原点に立ち返り、誰もが少しでも我慢ができるよう、また、我慢の先には、こういった明るい未来があるというビジョンを示すよう、国に対して要請してほしいといったご意見が寄せられております。

私からの説明は以上でございます。

### 【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

### 【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして、札幌市内の感染状況についてご説明をいたします。

それでは最初のスライドをご覧ください。新規感染者数につきましては、昨日の8月3日時点での1週間の合計ですが、1,097人と人口10万人当たりでは国のステージⅣ、北海道の警戒ステージ5の指標であります人口10万人当たり25を大きく上回っておりまして、56.1となっているところでございます。また、本日の新規感染者数は200人を上回り、244人であったため、人口10万人当たりでは61.5人まで増加しているところでございます。デルタ株疑いの事例も増加しており、また、感染経路不明の割合も5割を超えているなど感染の拡大が続いている状況でございます。

それでは次のスライドをご覧ください。札幌市民の入院患者数のグラフでございます。昨日時点の入院患者数は黄色い棒グラフでございますが、246人となっております。重症患者数は赤の折れ線グラフですが、重症は5となっているところでございます。これまでも新型コロナウイルス感染症におきましては、新規感染者数の増加に遅れて、入院患者数や重症患者数が増加してきたことから、今後医療への負担が急速に高まることが懸念されているところでございます。

それでは、最後のスライドをご覧ください。このスライドは検査数についてのグラフでございます。直近の1週間の検査数でございますが、12,615件でありまして、これを1日平均にいたしますと約1,800件の検査を実施しております。また、陽性率ですが、昨日の8月3日時点では8.7%と、7月以降増加傾向が続いております。また、デルタ株スクリーニングにおきましては、7月31日までの1週間の新規感染者のうち、検査の陽性率は55%と5割を超えており、デルタ株の置き換わりが進んでいる状況でございます。

札幌市の取り組みといたしましては、市内の感染が再拡大している状況においても保健所業務を滞りなく遂行していく必要がありますことから、500人規模の職員体制であったところに、8月から200人ほどの応援職員を増員したところであり、今後は感染拡大の状況に合わせて、最大で合計1,000人規模の職員体制を組めるように準備を進めているところでございます。また、札幌市内の各区役所に設置してあります新型コロナウイルス感染症対策室において、自宅療養者の健康観察などの業務を再開し、札幌市役所を全庁挙げて札幌市保健所業務の応援体制を強化することとしたところでございます。

以上でございます。

### 【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部・振興局等から、順次、発言をお願いいたします。  
まずは、胆振総合振興局。

### 【谷内胆振総合振興局長】

お手元の資料4に基づきまして、胆振管内の状況について、ご報告いたします。

まずスライド1頁目の上段の胆振管内の感染状況ですが、7月中旬から増加傾向となっており、人口10万人当たりの新規感染者数は、8月3日、昨日現在、週合計で17.1人となっております。管内の感染傾向をみますと、苫小牧市での感染が拡大しており、新規感染者の約8割を苫小牧市が占めております。年齢別では、先ほどの全道の傾向と同様に、20～30代が約5割と若年層の感染割合が高い状況にありまして、また、感染経路別で見ますと、事業所などにおきまして、この9日間で4件の集団感染が発生するなど、職場での感染が拡大している状況でございます。一方で、高齢者や社会福祉施設などの感染は減少している状況にあります。

振興局としましては、こうした感染状況を踏まえ、苫小牧市との連携を進めております。7月以降の感染拡大を受けまして、苫小牧市と振興局の保健部門や地域政策、商工などの関係部局の職員による連絡調整会議を開催し、感染状況の共有や、対応策の検討を行っており、苫小牧市におきましては、今週8月2日に緊急の市長メッセージを発送したほか、公共施設の利用制限などの対策を実施しております。引き続き、感染状況を注視しながら、苫小牧市と連携して迅速に対応を行ってまいります。

また、スライドの2頁目にありますように振興局におきましても、こうした若年層の感染割合が高い現状や、あるいはワクチン接種の進捗状況などから、今後、ますます若年層への広報が重要になるとの考えのもと、昨年度から取り組んでおります振興局と教育局の若手職員が作成しております若者向けに感染防止対策を発信しますかわら版がございましたけれども、こちらにつきまして、先週、夏の感染対策をテーマとしまして、第8回目の発効をし、若い方々への情報発信を行っております。引き続き、感染対策の徹底や今後のワクチン接種に向けた啓発なども、若い方々向けに実施をしてみたいと考えております。

さらに事業者向けの呼びかけも改めておこなったところであります。先ほど申し上げましたように、職場での感染拡大といったことを受けまして、このスライド右側にありますパンフレットを振興局で作成し、関係団体などを通じなどをしまして、改めて管内の各事業者の方々に基本的な感染対策の徹底を呼びかけるとともに、職場での感染リスクが高い場所の定期的な消毒や再点検をお願いしたところであります。

こうした取組にあたりましては、管内のそれぞれの市や町との連携が重要でございますけれども、振興局では地方本部会議を開催する際には、毎回、管内の市や町とオンラインで繋ぎまして、感染状況や、振興局、それぞれの市町の対策を共有しているところでございますけれども、今週2日に開催しました会議でも苫小牧市から取組などについて報告をいただきまして、他の市や町ともこうした状況を共有したところでございます。引き続き、感染状況を踏まえながら、それぞれの市や町や関係機関と緊密に連携を図りながら、ワクチン接種の円滑な実施なども含めまして、地域一丸となって感染防止対策に取り組んでまいります。

以上でございます

**【副本部長（小玉副知事）】**

次に、渡島総合振興局、お願いします。

**【鳴海渡島総合振興局長】**

渡島管内における感染状況と地域の取組をご報告いたします。資料5をご覧ください。

まず最近の感染状況ですけれども、渡島管内では社会福祉施設や企業等における集団感染事例が継続的に確認されておりますほか、特に7月下旬の4連休以降、本州との往来により感染が判明した事例や飲食の機会に感染したとみられる事例など、新規感染者が急増しております。右のグラフに書いておりますけれども、この期間における感染者数は、7月の全感染者数の6割を占めるなど、感染が急速に拡大している状況でございます。

次に地域における取組ですけれども、今回のまん延防止等重点措置の決定を踏まえまして、地方本部員会議の開催をいたしまして、今後の取組方針について協議をいたしまして、これまで以上に市町や関係機関と危機意識を共有し、改めて一人ひとりの感染防止対策等の徹底を図ることの重要性や感染拡大防止に向けて、経済団体などへの協力をお願いすることなどを確認したところです。これに基づきまして、本日午前中に管内11の市町との連絡会議を開催をいたしまして、情報と危機意識を共有した上で、防災無線や広報車などでの住民への働きかけを行っていただくよう依頼したところです。

次に2番目の来訪者への注意喚起ですけれども、振興局では先月12日の夏の再拡大防止特別対策の開始直後から、振興局のインスタグラムなどを活用して感染防止対策の徹底を周知してきたところです。夏の観光シーズンを迎えることから、右にイメージが書いておりますけれども、渡島地域にお越しの皆さまへと題しました、感染拡大防止への協力を依頼するリーフレットを制作して、旅行などで管内を訪れる方々を対象に、道の駅や空港、JRといった公共交通機関や主要なホテル、旅館などに配置をしていただいております。このリーフレットの作成にあたりましては、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録決定に合わせ縄文遺跡群のPRとともに、多くの方々に感染拡大防止に関する意識醸成が浸透するよう、若い世代に人気の著名なイラストレーターにご協力をいただきまして、親しみやすく、手にとってもらいやすいデザインを心がけたところでございます。今後、全国的に若者世代への感染拡大が懸念されておりますので、SNSをより一層活用し、若者をターゲットとした周知啓発に力を入れてまいりたいと考えてございます。

次に3番ですが、渡島管内の感染拡大防止のためには、多くの観光客が訪れ、また、管内で最も人口の多い函館市内の感染を抑え込むことが重要であるというふうと考えておりますので、函館市とは普段から様々なレベルで密接に情報共有を行ってきているところです。その一環といたしまして、地元ケーブルテレビ局やFMラジオ局にご協力をいただきながら、データ放送や番組内での放送などを通じまして、住民への情報提供や周知啓発を実施する際には、函館市と当振興局による共同メッセージの発出に努めており、今後も連携を密にしていきたいと思いますと考えております。

今月は、人の移動がより一層多くなる時期でございますので、各市町や関係機関などと協力して、この状況を乗り越えていきたいと考えております。

以上で渡島からの報告であります

**【副本部長（小玉副知事）】**

次に、オホーツク総合振興局、お願いします。

### 【橋本オホーツク総合振興局長】

資料6に基づいて報告をさせていただきます。

先週の本部会議で報告させていただきましたが、北見市において複数の集団感染事例が発生するなど、感染者が急増いたしました。このことを受け、北見市及びオホーツク総合振興局が連携して、資料に記載の6つの対策を柱として、感染拡大防止に向けた取組を行うこととしましたので、報告いたします。

まず1点目は、市民への行動変容の徹底の呼びかけでございます。今後、お盆の帰省などにより、人流の増加が懸念されますことから、繁華街において、北見市長をはじめとした関係者による街頭啓発などにより、感染防止行動の徹底を呼びかけてまいります。

3点目の幅広い検査の実施については、北見市繁華街の経営者や従業員を対象に、民間の検査機関を活用したPCR検査を行政検査として実施することとしており、現在、北見市において希望者の取りまとめを行っております。

また、4点目の公共施設の利用制限については、本日以降、屋内施設の利用時間を一律夜8時までとするほか、多くの利用者が見込まれる山の水族館など主要観光施設については、お盆時期を休館とする予定です。

さらに6点目ですが、満室状態が続いておりました宿泊療養施設については、現在、入所率6割程度まで減少することができました。しかし、今後のひっ迫に備え、広域的な搬送も検討していきたいと考えておりますので、上川、十勝、釧路の皆様におかれましては、その際にご協力をよろしくお願ひしたいと考えているところでございます。

なお、この対策の内容については、北見市においても8月2日に記者会見を開き、市民への説明を行っております。

引き続き、振興局といたしましては、北見市と緊密に連携を図りながら、具体的な対策を検討するとともに、これら対策の迅速な実施により、感染の拡大防止に努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

ご報告は以上です

### 【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局からご発言ございますか。

なければ、副本部長からお話しをお願いします

### 【本部長（知事）】

本日の新規感染者数については366人と、2か月ぶりとなります300人台となったところでございます。札幌市においては244人となりまして、感染の拡大が続いております。また、全道では先週比になりますが2倍を超える状況になるなど、感染のスピードも上がってきています。一段と厳しさが増しております。

現在、全国的にも経験したことのない感染拡大が続いています。過去最大の規模になっています。デルタ株の置き換わりによる急速な感染拡大、過去最大の危機になり得るといふ強い危機感を持っています。道民の皆様はもとより、全国民がこの危機感を共有して、一丸となって取組を進めて、乗り越えていかなければなりません。

道としては、8月2日からまん延防止等重点措置の下、札幌市内においては、人と人との接触機会の徹底した低減、札幌市以外では、感染防止行動の徹底に取り組んでいるところではありますが、特に、これから3連休、夏休み、お盆と感染リスクが最も高まるそういった時期を迎えます。まさに、正念場となります。

本日、総理は、夏休みの過ごし方ということで、今年の夏は、帰省や旅行は極力控えてほしい。やむを得ず帰省される方は検査を受け、身近な人と少人数で過ごすなど、慎重な対応をと呼びかけをされました。道民の皆様にも、この夏、ご自身の命と健康を守る行動をお願いしたいと思います。都道府県をまたぐ往来、これを極力控え、できる限り家族など普段会う人と自宅で過ごす。このことについて、ご理解をお願いいたします。

各本部員、地方本部員において、既に札幌市内、緊急事態宣言レベルにあるということ踏まえ、重点措置の下、徹底した対策に取り組むとともに、全道で警戒レベルを上げて、市町村と連携を図りながら、地域の実情に合わせた対策に機動的に取り組んでいただきたいと思います。

道内の感染者が300人を超え、感染のスピードも一層早まるなど、より厳しい局面に入ってきたわけであります。7月の4連休がありました。この7月の4連休の影響が顕在化してくる、そういった可能性も今後あります。今後の感染動向について最大限の危機感を持って対応していかなければなりません。必要に応じて、更なる強い措置も講じていく必要があります。

また、昨日になりますが、国から現下の感染拡大を踏まえた患者療養の考え方ということで示されました。道としては、医師が患者の症状などに基づいて、入院が必要と判断した方々については、入院をしていただきます。入院が必要ないということが判断された軽症者の方、無症状の方については、自宅療養又は宿泊療養としております。今後も医師会の皆様など関係者の皆様と連携をより一層強化をし、自宅などで療養される方への健康観察の更なる強化、訪問診療の体制強化などを進めていかなければなりません。

今後の更なる感染拡大に対し、更なる強い措置、そして、更なる体制の強化など迅速に対応できるよう、あらゆる事態を想定をし、検討を進めるよう指示をいたします。

ワクチンについてであります。市町村をはじめとする関係者の皆様のご尽力によりまして、重症化リスクの高い高齢者向けの接種が進みました。高齢者の感染者数も低い水準になっています。総理は本日、8割程度の高齢者が2回の接種を終える見込みであり、希望する高齢者への2回接種という目標は概ね達成をした。さらに若い世代への接種を本格化させ、今月末には、全国民の4割を超える方が2回接種を終えることを目指すとの発言がありました。道としても、ワクチン接種の促進に向けて、正しい情報をお届けをしながら、希望する方に一日でも早く接種が進められるよう、しっかりと市町村をサポートしてまいります。

最後になりますけれども、明日の8月5日から8月8日まで、オリンピックのマラソン、競歩競技が開催されます。おうちでエールということをコンセプトとして、自宅で、家族と、テレビで応援ということで皆様にはお願いをしているところではありますが、改めて、沿道での観戦は控えていただくように、周知徹底をそれぞれ図っていただきたいと思っております。

私からは以上です。

#### 【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示があったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第69回本部会議を終了いたします。

(了)